

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

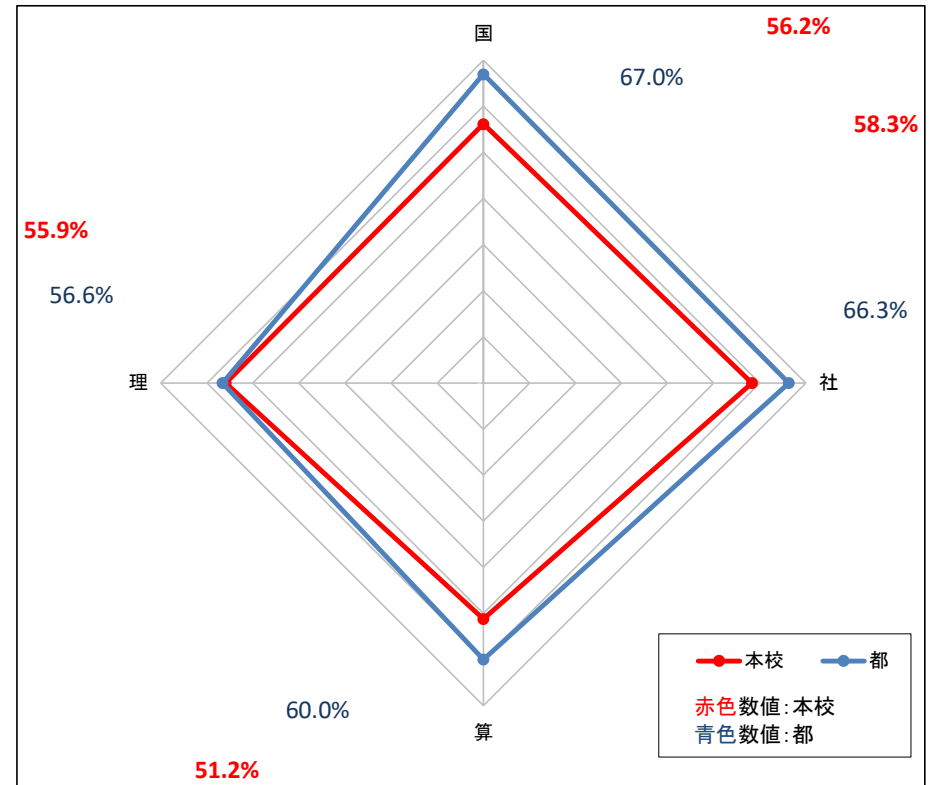
篠崎第三小学校

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	61.6%	71.7%	61.3%	44.6%	56.2%
都との差	-4.3	0.8	-5.8	-21.3	-10.8

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	56.5%	62.7%	66.1%	58.3%
都との差	-6.6	-3.8	-3.7	-8.0

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形について の技能	数量や図形について の知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	36.9%	59.4%	63.5%	51.2%
都との差	-9.5	-5.8	-4.3	-8.8

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象について の知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	47.4%	67.3%	57.7%	55.9%
都との差	-5.5	0.9	2.7	-0.7



《都との比較にみる本校の状況》

昨年度の調査では「読み解く力」と「教科の観点」があったが、今年度は「教科の観点」のみとなっている。昨年度と今年度の「教科の観点」を比べると、昨年度の国語は-8.3に対し今年度は-10.8と下がったが、社会は-11.2に対し今年度は-8.0、算数は-15.2に対し今年度は-8.8、理科は-5.3に対し今年度は-0.7と、国語以外はすべて上がった結果となり、都の平均に近づいている。特に理科は、都の平均とほぼ同じである。

教科毎に見ると、国語では、漢字の読み書きに関しては、繰り返し学習を重視して行っているのが、習得率に繋がっている。社会は、得点のバランスはよかったものの、平均点に届かず、都の平均を下回ってしまった。算数は、得点のバランスはよかったものの、平均点に届かず、都の平均を下回ってしまった。理科は、他の教科に比べてもとてもよい結果を残し、3つの項目のうち2つが都の平均を上回っている。

《授業改善のポイント》

国語で今回、特に誤答が多かった箇所は、「言語についての知識・理解」を問われた「主語・述語、修飾・被修飾の関係」であった。これらの関係を正しく理解させるとともに、子供の発達段階に応じた短文(文章)を創作できるように指導していく。文章を作るとともに語句の内容や使い方をより具体的にわかっていくというよさを実感させる。

社会は、身近な資料をみんなで分かち合い、情報を共有する中で正しい情報を取り出していく力を身に付けさせる。また、複数の資料を比較したり総合したりして、児童が自ら課題に気づき、その解決に向けて考えたり、表現したりする学習活動の充実を図る。

算数は、図と表と式とを相互に関連させて、数量の関係を捉えさせる学習を充実させる。低学年の段階から、数一つの見方や表し方ではなく、複数の見方や表し方ができるようにすることで、数についての感覚を豊かにする。

理科は、複数の事物・現象から問題を見いだす活動を充実させる。「科学的な思考・表現」力を養うためには、「問題の把握・設定の場面」で複数の自然の事物・現象を比較し、その差異点や共通点を捉える活動を行い、問題を見いだすことができるように指導していく。

《家庭・地域への働きかけ》

日頃から家庭には、早寝・早起き・朝ごはんといった基本的な生活リズムの定着をお願いしている。特に家庭学習においては、学年×10分をお願いをし、宿題忘れがないよう家庭での見守りをお願いしている。それに伴い、各学級の宿題提出率は上がっている。

また、保護者や地域の方々には、安全安心の生活が送れるよう登下校における旗振り当番や毎週木曜日の読み聞かせ等をボランティアとしてお願いし、児童の健全育成にご支援・ご協力をいただいている。安全で安心して過ごせる地域において、子供たちはすくすくと育っている。学校は、こうした保護者や地域からの期待を受け、子供の学力向上に日々励んでいる。